

アイスランドの鳥切手から

特徴ある自然景観、鳥、魚、船の切手に惹かれるアイスランド切手の中に興味深い鳥を見つけた。北極圏周辺の海辺に生息するホンケワタガモだ（図1）。アイスランドでもこの水鳥、渡りをせず近海で冬を越し、内陸には生息せず、春からは海岸の平地で営巣する。ホンケワタの名前のとおり綿のような良質の羽毛を人間にもたらしてくれる鳥である。この羽毛は普通の羽毛とは大違いの羽毛の質を持ち、特異な取得方法から生まれている。

普通の羽毛は採取でなく、食用として飼育した若鳥を殺し機械で羽毛を獲る食用副産物として作られているものが多い。高級な羽毛は羽毛採取用に数年間飼育されている親鳥の胸部の羽と羽の間のダウン（羽毛）という綿毛を年に数回、人が採取したもの。この上をいくのがホンケワタガモの羽毛。どう違うのか。まず、手に入れる方法が羽毛を獲る、採取するでなく、羽毛を拾得する方法だからだ。ホンケワタガモは海に近い平地で営巣し、繁殖期、抱卵期を迎えると、ホルモンの影響でメスの胸の羽毛が抜ける。防寒、保温の役割を持った羽毛は親の体温を卵に伝えるためには邪魔な存在となる。そのため羽と羽の間の羽毛が抜けて抱卵の効果を上げる。さらに、抜けた羽毛は卵を冷氣から守る巣の重要な材料となる（図2）。それを拾得するのだ。

孫の鳥類図鑑に載ったオシドリも似ていたが、ホンケワタガモの羽毛は顕微鏡レベルで他の鳥の羽毛に比較して優れている特徴を持つという。



図2. 海辺に作られた巣と羽毛のアップ画像



図1 ホンケワタガモの切手2種

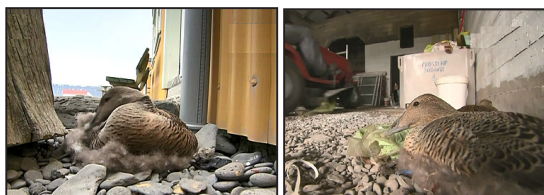


図3 玄関先、納屋に営巣したホンケワタガモ

次に、取得方法がおもしろい。ホンケワタガモはとても人に馴れていて、ツバメのように人家の近くにも営巣するという（図3）。このため、巣から羽毛を拾得するのは簡単である。営巣、育児状況を見計らって羽毛と干し草を交換して貰うのである。もっと仲良くして羽毛を交換する方法をアイスランドの人は考えている。巣箱を提供するのだ。北極圏の地では木材は大変貴重。ロシア北極地域からの貴重な流木を利用してのものだ（図4）。この巣箱を海岸の丘に置き、営巣してもらい雨に濡れてない羽毛を干し草と交換して頂き、お礼に繁殖を助けることが行われている。しかし、このようにして頂ける羽毛の量は非常に少なく、値段は重さで換算すると羽毛と金と同じだといわれるぐらい。この羽毛布団、日頃、肌にする布団と1、2桁異なる値段だ。



図4. 流木で作る水鳥用の巣箱。巣箱が海岸の丘に並んだ一大キャンプ地。巣箱に立てられた旗は巣箱作成農家のサイン